

第4号
平成16年
5月

京都市市民参加推進フォーラム みやこ協働通信



CONTENTS (もくじ)

市民参加推進フォーラム第5回・第6回会議開催

フォーラム委員退任コメント

〈シリーズ「まちづくり人登場!」〉有隣まちづくり委員会

〈京都市からのお知らせ〉出前トーク実施結果報告/電子会議室試行実施結果報告



「市民参加推進フォーラム」第5回・第6回会議を開催

平成15年12月15日(月)午後3時から、市民活動総合センターにおいて「市民参加推進フォーラム」第5回会議を開催しました。また、16年3月30日(火)午前10時から、京都国際ホテルにおいて第6回会議を開催しました。

第5回会議

1 報告及び議題説明

(1) 報告

電子会議室の試行実施状況や市民活動総合センターの運営状況、京都市政出前トークの実施概要等について、事務局から報告した。

(2) 議題

①今後の市民参加の方向性について

市民参加の第2ステージといえる段階にあり、今後、地域コミュニティの活性化や、NPOなどの市民活動と、地縁的な活動とのマッチング・連携の強化などを進めていく必要がある。

②市民参加手法の開発研究について

市民参加推進計画にも記載しているが、今後、研究会を設置し、新たな市民参加手法の開発に取り組むこととしている。

2 議論の概要

- ・電子会議室について、テーマの選び方、展開の方法等について、検討が必要である。
 - ・出前トークやその他の市民参加の取組において、もっとフォーラムが協力できるようにする必要がある。
 - ・フォーラムで研究会を開催し、フォーラムの機能、権限、役割分担等を考えていってはどうか。
- その他、電子会議室や出前トークのしくみについて、様々な提案や意見が交換された。



第6回会議

1 議題説明

(1) 平成15年度の市民参加の取組について

京都市政出前トークの実施結果や電子会議室「みやこeコミュニティ」の試行実施結果等について、事務局から報告した。

(2) これまでの市民参加推進フォーラムの総括について

取組の振り返りや、委員による自主研究会での議論内容についての報告があった。

2 議論の概要

- ・電子会議室について、進行役の難しさを感じた。また、参加者同士の「顔」が見えるようにしていく必要がある。
- ・市民からの声で市政を進めていかなければいけない。行政の声で進めるだけではこれからの時代はうまくいかない。
- ・自主研究会において、具体的な課題を扱うざっくりばらんな議論の機会の継続的な確保が必要ではないか、という意見が出た。また、市民と市民をつなぐ、あるいは行政と市民をつなぐことの重要性、こうしたツナギ役が増えることが京都市の市民参加が広がっていくことにつながる。フォーラムも、そのツナギ役の一つを目指していく必要があるのではないかと、という意見も出た。

議事録は、プロジェクト推進室ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/sogo/project/> で公開中!

京都市市民参加推進フォーラム委員 委員退任コメント

2年間ご活躍いただいた委員の皆さんに退任にあたって、コメントをいただきました。



西島 安則 座長

この市民参加推進フォーラムでは、その最初の会合以来、いつも生き生きとした意見が交わされ、一度として議論が弛んだことはありませんでした。

フォーラムは和気藹々とした友情に包まれて、委員は素直に発言し、それはいつも「市民参加」という意識の形成と高揚についての体験と思索に基づいたものでした。

“わたしたち京都市民”が主体的にまちをつくるということは、外見の美しさよりも、まず、ここに住み暮らす市民の心のつながりによる内面的な美しさを、身近な日々の生活の中で創り出すことであります。それが美しいまちづくりの起点であり、文化力の土台であると思っています。京都は素晴らしい美しさを秘めています。有難うございました。



小井香欧里 委員

2年間お世話になりました。私は公募委員として女性、子ども、そして市民活動、対人援助活動などそれぞれの当事者としての立場を大事に参加してきました。委員会や

ミーティングなどではいわゆる現場の意見をお伝えしてきたつもりです。フォーラムのなかでは異年齢、異業種といったさまざまな方々がおられるということの意義も感じました。時には白熱した議論にもなりその意味ではまだまだこれから…という部分もあったようにも感じます。ただ、私はいろいろな現場で動く人なので温度差を感じることも多々ありました。委員としての任期は終わりますが今後も自分の立場を大事に活動しつつフォーラムの皆様と過ごした自分なりの関わりを大事にしたいと思っています。今後の活動に期待します。



小林 達弥 委員

2年間本当にありがとうございました。市政に対して、そんなに興味や知識もない中で、自分に何ができるのか？自問自答しながらやってきました。実際そういった無

関心な市民の一代弁者のつもりで意見を述べさせていただきました。

フォーラム活動の中で、立場や思想の違う人と話し合うことの大切さを知り、また、地域の中で暮らすことの自分自身の役割や責任も感じるようになった気がします。

市民参加という言葉は難しいですが、京都を愛する一市民として、毎日が少しでも楽しく、愉快地暮らせるように自分なりに地域やまちづくりに協力していきたいと思っています。



木村 寿夫 委員

「市民参加」という目新しい言葉に興味をひかれフォーラム委員に応募しましたが、その間口の広さと奥行きに驚愕し、ひたすら勉強した2年間でした。「市民」

で社会との関わりなしには生きていけない人間を、「参加」でその社会との関わり方を考え、ギリシャのポリスの市民社会から「個」の確立による近代市民社会の流れを踏まえて、日本の市民社会の将来に思いを馳せる機会でもありました。経済の停滞による閉塞感が強い我が国ですが1万5千を超えるNPOの活躍に見られるように、自己実現意欲に富んだ人々が着実に増え、地域社会、企業、自治体との「協働」のネットワークを広げ、階層意識の強い社会を変えつつあります。これを機会に「市民参加」を推進する市民活動にも主体的にかかわっていきたく思います。



土山希美枝 委員

フォーラムへの参加をつうじて、たくさんの方の事を学び、経験させていただきました。市民参加推進条例については有志で勉強会を行いました。条例だけでなく、京都の市民活動をめぐるさまざまな題材を紹介していただきながら、委員の皆さんと議論できたことは、私にとって大変貴重な機会となりました。フォーラムの議論がより活発になる一助にもなったのではと感じています。今年2月には、多くの委員の意欲に支えられ、第1期の終わりにあたって再び自主研究会が行われました。具体的な課題について自由に議論する機会がいかにか大事であるかを改めて実感しました。宗田副座長はじめ、研究会・勉強会に参加された委員の皆さん、応援していただいた西島座長、事務局の皆さんにとっても感謝しています。

また、電子会議室という新しい試みにも関わらせていただきました。今夏からアイルランドへの留学を予定していますが、フォーラムで経験させていただいたことを生かしなが、また別の自治や市民参加のかたちを学んで来たいと思います。今後も、一人の市民として、フォーラムの活動をつないでいきたいと願っています。

また、電子会議室という新しい試みにも関わらせていただきました。今夏からアイルランドへの留学を予定していますが、フォーラムで経験させていただいたことを生かしなが、また別の自治や市民参加のかたちを学んで来たいと思います。今後も、一人の市民として、フォーラムの活動をつないでいきたいと願っています。



松本 文子 委員

とても有意義な2年間でした。ほんの数回のフォーラムや勉強会でしたが、たいへん勉強になりました。また、私の発言に共感していただいたり、そこから話題が広がったりして、本当に毎回楽しく過ごすことができました。

地域に暮らす一市民として、個人的にすばらしい人たちが自分の家庭しか見えていないことを、つねづね残念に思ってきました。今これからの時代、新しい情報や制度を積極的に取り入れて、「支えあうまちづくり」をしてこそ、自分の家庭や家族が守れるのだと感じたこの経験を、自分の地域で活かせるよう、行動していきたいと考えています。

まちづくり人 登場!!

「市政への参加」だけではなく、市民が自主的に取り組む「まちづくり活動」も市民参加。みやこ協働通信では、そんな「まちづくり活動」に取り組んでおられる方たちを「まちづくり人」と名づけ、様々な取組とともに、まちづくりへの熱き思いをシリーズで紹介していきます。

小学校跡地の活用検討を契機として

そもそものきっかけは、小学校跡地の活用方法について考えることが必要になった中で、景観だけを考えたまちづくりではなく、住民の意見を聞き、人の気持ちを大事にして本当のまちづくりをしていこう、そのために住民同士がつながりを持ち、交流を深めていこうと思うようになったことです。

マンション居住者との交流を目指して

住民の意見を聞いて、と思ったところ、マンションにお住まいの方が多くなっており、世帯数ももとの住民と似たような数になっている、という状況がわかりました。マンションにどのような人たちが住んでおられるのかも把握していなかったのですが、マンションにお住まいの方の意向を確認する必要が出てきたわけです。具体的に、マンションにお住まいの方がどれだけ地域の催しに参加してくれているか、夏祭りなどでアンケートをとってみたいところ（学区の地図を貼り出して、ピンを刺してもらいました）、100名以上の方が来られており、マンションとどうやったらつながりができるかを考えていく必要があることがわかりました。

そこで、マンションにお住まいの方に町内会に加入していただくために、個別に加入の依頼を行うとともに、これから建設されるマンションと町内会がつながりを持つために「マンションマニュアル」を作りました。建設の話が持ち込まれたときには町内役員で情報を共有すること、協定書等の内容について町内会議で意思統一し、双方の責任者を明確にしなが交渉を進めていくことなどが盛り込まれており、すでに取り組まれている町の方やNPOの方々などの意見も聞いて作成したものです。そのかいあってか、マンションにお住まいの方に、世帯ごとに「一般世帯」として町内会に加入していただいているケースがでてきています。

また、より交流を深める取組として、平成15年2月から3月まで、消防団、自主防災会、体育振興会などに一同に集ってもらい、日頃の活動をPRする「マンションフォーラム」を全3回行いました。



マンションの子ども達のための地蔵盆

8月下旬には、町内会のないマンションの子ども達に地域の地蔵盆を体験させてあげたいと「マンションの子ども達のための地蔵盆」を行いました。数珠まわしや福引など、趣向を凝らした結果、当初の予想をはるかに超える方々に参加していただきました。

自発的な子育てサークルを目指して — 子育てセミナー

15年10月には、幼稚園に行く子供たちを持つお母さんを対象に、「子育てセミナー」を開催しました。第1回セミナーは、大変熱心な参加者に恵まれました。ワークショップ形式で意見交換を行い、

第4回 有隣まちづくり委員会

五条通の北側に位置する有隣学区（下京区）では、マンションが急増し、マンション居住者と旧来の住民との交流や統廃合された小学校の跡地を利用した取組を考えるため、平成14年6月に有隣まちづくり委員会を設立されています。今回はその取組について吉田治弘会長にお話を伺いました。



吉田治弘会長

最後のテーブルごとの発表も積極的にしていただきました。こういうお母さんがおられたら、きっと学区も活性化するだろうと思いました。第2回セミナーは、幼稚園に行くまでの子どもを持つお母さん方を対象に、この3月末に行いました。

子育てセミナーを2回終えた後で、まちづくり委員会の中から、「役員ばかりで企画して、皆には来てもらうだけ、というのではいかがか。役員ばかりが大変な思いをするのではなく、自主的に企画を立ててもらおうようにしていかなければならないのではないか。」という意見がありました。

いずれは、子育てサークルをお母さん方に立ち上げてもらって、いろいろ自主的に企画していただき、まちづくり委員会がそれを支援していくようなになればいいと思っています。



子育てセミナー

新たな取組 - マンションと町内とのネットワーク



まちづくりニュース

マンションと町内とのネットワークということで、マンション同士の交流を広げることを目指した取組に着手しています。マンションにおいては、防犯の問題などが共通のものとしてあり、マンション同士で有益な情報を共有してもらい、そのやりとりをこちらにも教えてもらう、というものを想定しています。具体的には、チラシを作ってマンション各戸に配布し、その裏面のアンケートに記入してもらい、FAXでこちらに返送してもらう、というものです。

今後はより一層つながりを広げて

最近では、マンション居住者にも子どもがおられることで、お母さん同士のつながりができてきています。学校でPTA活動されていても、まちづくり委員会にはまだ参加していただいていない方もおられますので、今後、どうつながりを広げていくかが課題だと思います。

また、固定されたメンバーが同じように動き、活動が増えるとその人たちの負担が増える一方という状況ではいけないと考えています。お手伝いしてくれる人は増えてきましたが、企画してもらうまでにはもう少し時間がかかります。マンション居住者の皆さんにも企画する側に入っていただいて、共に思いを共有し、地域が育っていければいいと考えています。

今までと同じことをやっていたのでは衰退しているように思われがちなので、これまでやってきたことを土台にして、新しいことに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

京都市からの お知らせ

京都市政出前トークを実施



市民の皆さんの身近な場所に直接出向いて市政についての説明を行い、市政に関する理解を深めていただくとともに、これからのまちづくりについて共に考えるきっかけを作ることを目的として、「京都市政出前トーク」（平成15年度分）を平成15年12月から16年2月まで実施しました。

これは、京都市が、市民の皆さんの関心の高い施策・事業やまちづくりについて多様なテーマ（平成15年度は160テーマ）をあらかじめ設定し、市民の方に、これらのテーマの中から聞きたいテーマを選んで申し込んでいただき、テーマ所管課の担当職員が出向いて説明するものです。

13件実施し、合計560名の市民の皆さんに参加していただきました。参加者アンケートでは、「行政が身近に感じられてよかった」

「また申し込みたい」などの感想が寄せられています。

今年度からは、毎年6月から受付を開始し、翌年2月まで実施する予定です。市内に在住、在勤又は通学されている市民の皆さんで、10人以上が参加される集まりで申し込んでいただけます。市役所又は各区役所・支所に申込書を置きますので、必要事項を記入の上、開催希望日の1ヶ月前までに、各区役所・支所のまちづくり推進課又は総合企画局プロジェクト推進室までお申し込みください。

（持参、郵送、FAX又はプロジェクト推進室のホームページから）

バラエティに
富んだメニュー
から、聞きたい
テーマの「出前」
を注文して
下さい。

京都市電子会議室「みやこeコミュニティ」 本格実施に向けて

電子会議室とは、インターネットを活用し、市民の市政への積極的な参加機会を設けるとともに、インターネット上でのコミュニティの形成を目指し設置する「新しい参加の仕組み」です。

平成15年8月から16年3月まで、運営体制等の点検や会議室議事運営内容の検証などを目的として、広く市民の皆さんにも参加を呼びかけ、試行実施を行いました。7つのテーマで実施しましたが、のべ184名の方に参加登録をしていただき、458件の発言をいただきました。

今年度は、試行実施の結果を踏まえ、より参加しやすいテーマの設定や周知方法などについて工夫し、本格的に実施していく予定です。

電子会議室で議論される内容は、市役所内部でも検討し、市政に反映できるものは反映させていくようにするなど、市民の皆さんの声を聞く新しいしくみとして活用していきたいと思っていますので、皆さんのご参加、ご発言をよろしくお願ひします。

なお、ご意見等がございましたら、事務局（市総合企画局プロジェクト推進室）までお寄せください。



事務局からの お知らせ

市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」の発行

これからも市民参加推進フォーラムの協議状況やシンポジウムの開催予定などを、市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」でお知らせします。ニュースレターは、市役所・区役所、図書館などで配布します。

また、ニュースレターに関するご意見・ご感想を事務局までお寄せください。

市民参加推進フォーラムは皆さんの声を活かして行きます。ご意見は事務局までお寄せください。

市民参加推進フォーラムニュースレター「みやこ協働通信」 第4号／平成16年5月21日発行

事務局：〒604-8571（住所記載不要）

京都市総合企画局プロジェクト推進室

電話 075-222-3178 / FAX 075-213-0443

Eメール partner@city.kyoto.jp ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/sogo/project/index.html>

「題字・イラスト」は京都造形芸術大学情報デザイン科4年 野上梨絵さんの作品です。